

東京都立 小峰公園

■住所：東京都あきる野市留原284-1 ■TEL：042-595-0400

■HP：<http://www1.ocn.ne.jp/~komine/> ■FAX：042-595-2365

■施設概要：小峰公園は、都立秋川丘陵自然公園のほぼ中央部に立地し、11haのエリアは、谷戸田、桜尾根、草地、雑木林等の多様な環境を擁している。中心施設である小峰ビジターセンターは、公園での自然体験や環境教育、また自然環境の調査など、様々な活動の拠点として運営されている。

■発注元：公益財団法人 東京都公園協会（指定管理者）

■受託年：平成22年4月～ 環境教育プログラム運営業務委託

■職員人数：1名/日（他4名を指定管理者から派遣）

●主な業務内容（運營業務委託）

- ・来園者への対応
展示解説、自然情報の案内、登山道の状況案内など
セルフガイドの制作、設置
団体利用者対応（オーダーメイドプログラム）
- ・各種イベント企画・運営
谷戸田の稲作体験、自然体験教室、里山ミニ教室など
一部のイベントをボランティアと運営している
- ・ビジターセンター展示物の制作、管理、更新
- ・自然環境調査
- ・園内管理巡回
- ・広報
各種情報誌にイベント情報を掲載
小峰ビジターセンターホームページの更新
<http://www1.ocn.ne.jp/~komine/>



小峰ビジターセンター



小峰公園の谷戸田

●業務実績（運營業務委託）／平成26年度

- ・来館者数は34,716名。
イベントの企画・運営など

谷戸田の稲作体験	： 9回	414名
里山の畑作体験	： 3回	54名
自然体験教室	： 7回	112名
里山ミニ教室	： 8回	104名
団体利用者対応	： 4回	279名
- ・展示・広報ツール制作業務
展示物などの制作 91件
ブログ「小峰公園最新自然情報」の運営
- ・調査業務
秋川丘陵自然公園エコモニタリング調査 24回



自然解説の様子

●小峰公園で実施している主なイベント

・谷戸田の稲作体験

園内の谷戸田を利用し、籾蒔き、田植え、稲刈り等、1年を通して稲作を体験する事前申し込みのイベント。稲作作業の体験とともに、水田周辺の生態系観察も重要視している。

・里山ミニ教室

毎月第一日曜日にガイドウォーク、クラフトを実施している。手軽に参加できるように、当日に窓口で参加を受け付けている。

・自然体験教室

園内に限らず、五日市周辺や多摩地域の興味深い自然や歴史文化をテーマにした、事前申し込みの1日イベント。



谷戸田の
稲作体験



里山ミニ教室



自然体験教室

●団体対応利用者対応(オーダーメイドプログラム)

利用者の希望に応じてテーマを設定し、体験プログラムを提供している。

当事者として考える (獣害体験プログラム)

どこに限った事ではなく、日本各地の中山間地、里山とよばれる地域では野生鳥獣による農作物の食害が顕著にみられる。当地においても同様に田畑を荒らされる獣害が問題となっている。とくにイノシシによる被害が甚大で、収穫寸前の田畑が壊滅してしまった農家もあるほどだ。「野生動物と人とが、共に仲良く暮らしていける環境を!」、かなり使い古されたような言葉であるが、少なくとも酷く獣害を被った者の口からは発せられない言葉かもしれない。

小峰公園では園内中央部に水田と畑地があり、その環境を利用した環境学習や食育のプログラムを展開している。ことに畑作のプログラムでは、地域に根差した昔ながらの野菜づくりとして里芋を栽培している。皮肉にも里芋はイノシシの好物で、里芋を栽培するプログラムにおいて電気柵の敷設でもしない限り、獣害は不可避である。そこで、このような状況を逆手に取り「獣害を体験するプログラム」を考案し展開した。

プログラムの展開は次の通り。●参加者は獣害を被ることを知らされないまま、秋の収穫に向けて里芋栽培を開始する。●自ら育てた里芋が獣害を受ける。

●展示、広報ツール制作

- ・季節ごとに更新する季節展示の作成を担当している。
- ・自然情報やイベント情報などをリアルタイムでお伝えするため、ブログ形式で発信する「小峰公園レンジャーブログ」を運営している。利用者からの反応が多くあり、リピーターの増加に起因している。<http://komine-n-info.blogspot.com>



季節展示の一例



リニューアルしたホームページ



小峰レンジャーブログ

●獣害対策を施し、死守した僅かな里芋を収穫し味わう。●そして獣害を被った当事者として、里山の自然と人との関わり方を考えてみる。

小峰公園周辺のイノシシは田畑の作物を一度に殲滅させることはなく、数回、数日に分けて襲来する。その際に死守する里芋の株をトタン板で囲ってしまうのだが、イノシシに荒々しく掘り返され、芋をかじり散らかされた畑は、相当ショッキングな痛々しい光景になる。ましてや獣害とは無縁の日常を過ごす参加者ともなれば、心に受ける衝撃は大だ。

死守した僅かな里芋でも、食べきれないほどの収穫にはなる。愛情を込めて育てた里芋を畑のわきで食しながら、あらためて「野生動物と人とが、共に仲良く暮らしていける環境を!」を口にしてみる。獣害を被った当事者の立場で、参加者の心に何らかの動きが起これば良いと思う。

東京都立 小峰公園
指導員 鈴木崇則

